

「外来がん化学療法センター」を立ち上げるなど、積極的にチーム医療に取り組む 薬剤部主導で

薬剤部・薬局訪問 第78回 医療法人社団木下会 千葉西総合病院 薬剤部



[医療法人社団木下会 千葉西総合病院]
千葉県松戸市金ヶ作107-1

理事長：徳田 虎雄 院長：三角 和雄
病床数：408床
外来患者数：1日平均約1100人
外来患者への処方箋発行枚数：1カ月平均700枚
院外処方箋発行率：約2~3%
薬剤師数：33名(薬剤師28名、非常勤薬剤師2名、
助手1名、非常勤助手2名)

平成22年3月現在

医療法人社団木下会千葉西総合病院は、徳洲会グループの病院として、365日24時間受診体制を敷いて地域医療に貢献しているほか、循環器治療では国内外から患者を受け入れていることでも知られています。薬剤部においても、24時間対応するために当直2名体制を整えており、チーム医療に積極的に関与するなど薬剤師の業務拡大に努めています。そこで前薬剤部長(現・徳洲会薬剤部会代表)の高橋智先生及び副薬局長の出雲貴文先生、がん薬物療法認定薬剤師の香取哲哉先生から、チーム医療に積極的に取り組んでいる状況などをお聞きました。

「病棟常駐薬剤師制度」を実施している

●●初めに薬剤部の方針をお聞かせください。

高橋 「生命だけは平等だ」という徳洲会の基本理念のもと、治療に貢献するために薬剤師として何ができるかを自分で考えて行動することを目標にしています。現在、病棟業務、外来化学療法、感染対策、NST、外来

糖尿病教室、褥瘡ケア、在宅医療など各種のチーム医療に積極的に参加しています。中でも、外来がん化学療法センターの立ち上げは、薬剤部から提案して実現したケースです。

●●病棟での業務は、どのような内容ですか？

出雲 当院ではICU、

CCU、産科病棟を除く7つの病棟で「病棟常駐薬剤師制度」を実施しています。薬剤師が朝から病棟に入って業務にあたり、薬剤管理指導業務だけでなく、注射薬の確認とセッティング、各患者さん1週間分の配薬セット、入院時の持参薬チェックなども行っています。

高橋 病棟に常駐することで、医師、看護師との信頼関係を築くことがで

き、また、患者さんへの安全管理面についても効果を上げているのではないかと、思っています。具体的な安全管理対策の一例として、持参薬のチェック時に、薬剤師の視点で副作用歴など必要な情報をお聞きしています。

徳洲会グループ内で情報交換を行っている

●●病棟に常駐する薬剤師は専任ですか？



徳洲会薬剤部会代表(同病院前薬剤部長)

高橋 智先生

高橋 1年目を除く薬剤師全員が病棟に上がっており、1病棟当たり複数の担当者を決めて、ローテーションを組んでいます。1年に1回希望病棟を聞いて配置していますが、担当年数が3年を超えないように各病棟を経験するようにしています。

基本的には、総合的な知識を身につけた上で専門的な分野を深めていくようにしています。現在、がん薬物療法認定薬剤師が3名、NST専門療法士が1名、糖尿病療養指導士が6名などが資格を取得し、各分野でチーム医療に参加しています。

●●病棟業務以外に様々な業務を兼務されているのですかね。

出雲 そうです。調剤業務などのほか、

外来化学療法センター、日帰り手術センター、産科教室、在宅訪問看護にもローテーションで薬剤師を配置しています。

そのうち、在宅業務についていえば、月30～40件ほど、松戸市内のお宅を訪問しています。

●● 薬剤師として新しい業務を習得する際に、バックアップなどがありましたら教えてください。

高橋 徳洲会グループでは、全体のレベルアップを図るためにグループ内で情報交換や研究会を行っています。研究会では、各病院での臨床業務事例の発表などを行っており、新しい業務に取り組む時に役立っています。

また、がん薬物療法認定薬剤師資格を取得するには3カ月研修に出る必要がありますが、徳洲会の規定として給与と交通費を補償することにしています。



薬剤部・副薬局長 出雲 貴文先生
(日本糖尿病療養指導士)

決めて1名ずつ常駐しています。治療数は1カ月平均約110件です。

●● センターでの薬剤師の主な役割をお聞かせください。

香取 患者さん及び医師、看護師への情報提供、薬剤師の視点での経過記録記載などがあります。また、未承認薬については医師

だけでなく患者さんからも聞かれますので、常に最新のがん治療情報を収集しておく必要があります。なお、薬剤師の当日業務としては、患者さんへの問診のほか、無菌調製と持ち帰っていただく薬の調剤なども行います。

●● 患者さんへの説明や安全管理面で工夫されていることをお聞かせください。

香取 問診では、薬剤部で独自に作成したレジメンごとのパンフレットと体調管理シートを使った説明を行っています。また、電子カルテ情報の

ほかに個々の患者さんのがん治療情報を集約するために「外来化学療法センター支援システム(図表)」を独自に作成して、患者さんとのコミュニケーションや処方入力チェックなどに役立っています。



薬剤部・主任 香取 哲哉先生
(がん薬物療法認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士)

そして、薬剤師がレジメンを管理することも重要で、抗がん剤の投与速度や投与時間、溶解液などをできる限り統一化するようにしています。高橋 患者さんの知る権利やファーマシューティカルケアが重要になっている現在、薬剤師業務も発展していくことが求められています。そのため、当院では薬剤師が自ら手を上げて、チーム医療に取り組み、研鑽を積むことを勧めています。

レジメンパンフ、支援ソフトを作成した

●● 外来化学療法センターはいつ開設されたのですか?

高橋 2009年5月から稼働しています。がん薬物療法認定薬剤師を取得した香取が中心になって、採算面、人員配置などの検討を行い、病院の承認を得て立ち上げに至りました。

●● 人員の配置やベッド数などを教えてください。

香取 当センターはリクライニングチェア4床、ベッド1床です。専任の看護師が2名、薬剤師が6名(うち3名ががん薬物療法認定薬剤師)、外科医が8名(1名ずつ当番)が配置されています。6名の薬剤師は担当曜日を

図表: 外来化学療法センター支援システム(初期画面)

患者個々のがん治療に関するエピソードを簡潔に調べられることを目的に、基礎データや治療歴、レジメンマスタ等の情報をまとめたソフトプログラム。



提供: 千葉西総合病院・薬剤部